



平成27年度版 日本晴(認証④)栽培ごよみ【移植】

JA越前たけふ 丹南農林総合事務所

月旬別	平成26年		平成27年																		
	10月	10月~12月の期間中 2ヶ月以上	4月			5月			6月			7月			8月			9月			
時期	土づくり	農閑期	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
水管理	秋の田起こし 稲わらの踏み込み 作土深15cm以上 稲わらの踏み込み	湛水管理				育苗期	田植え期、活着期		有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期		出穂期		登熟期	収穫期	
管理作業の要点	スタートは土づくりから 来年度へ向けて土づくり ケイカル500kg/10aもしくは ホホワイトカリウ100kg/10a散布	湛水管理	表示板の設置	種子の温湯消毒後直ちに浸種 (JAへ必要量を注文)	育苗	田植え同時除草剤 メガゼータ粒剤を散布	中干し	有機肥料の場合、効果が出るまで約1週間かかる	出穂期前後はこまめな水管理	間断通水	間断通水の確認は水尻側で行	通常米と区分して収穫・乾燥	適期刈取 青刈割合10~15% 籾水分 20~25% 見た目(葉色)で判断しない	胸割米防止対策 フェーン時は予め入水、根の活性化を図る	選別網、流量を適正						
①土づくりに関する技術 (堆肥等有機質資材施用技術) 苗箱施用による葉いもち・紋枯れ予防 (播種時・移植当日) スタウトダントツ粒剤 50g/箱	②化学合成農薬の使用を低減する技術 (温湯種子消毒技術) 温湯消毒済み種子を使用(JAから購入)	③化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	④化学合成農薬の使用を低減する技術 (温湯種子消毒技術) 温湯消毒済み種子を使用(JAから購入)	⑤化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑥化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑦化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑧化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑨化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑩化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑪化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑫化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑬化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑭化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑮化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑯化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑰化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑱化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑲化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	⑳化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	㉑化学合成農薬の使用を低減する技術 (浸種後、直ちに冷却) 水溫60℃で10分間浸種	
化学肥料窒素 3.5kg/10a以内	<p>くみあい床土(0.02kg) 特裁こだわり278(3.30kg) こだわり有機712 (-kg)</p>																		化学肥料窒素合計 3.32 kg		
節減対象農薬 10成分/10a以内	<p>ダコニール(1成分) スタウトダントツ(2成分) メガゼータ粒剤、ジャンボ剤(2成分) グリンチャー粒剤(1成分) ラウンドアップマックスロード液剤(1成分) パリダシン(1成分) ダントツ(1成分) スタークル(1成分)</p>																		節減対象農薬合計 10 成分		